

第1回高砂市文化振興審議会議事録

出席者 登市長、田端会長、北野副会長、三井委員、岩見委員、渡邊委員、唐津委員、高橋委員、前田委員、森本委員、松本委員
事務局 富田副市長、圓尾教育長、橋本部長、猪子室長、東野課長、福原主幹、前川係長
富士原室長、泉田課長、麻主幹

委嘱状交付

【事務局】 開会に先立ちまして、登市長より皆様方に委員の委嘱状を交付させていただきます。市長よろしくお願します。

(市長 各委員に委嘱状交付)

1. 開会

【司会】 委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

それでは、ただ今より第1回高砂市文化振興審議会を開催いたします。

まず、当審議会の公開についてですが、「高砂市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、公開とさせていただいております。よろしくお願い申し上げます。

なお、お手元にお配りしている資料の次第により進行しますので、よろしくお願い申し上げます。

今回は資料を当日に配付いたしておりますが、事前に委員の方々に目を通していただけよう、次回からは1週間ぐらい前に資料をお渡しできるよう用意いたします。

次に、会議の進行について、ひとこと、お断り申し上げます。

この審議会の議事は、会長が議長として進めることとなっておりますが、会長が決定されるまで、事務局が行いますので、よろしくお願い申し上げます。

私は、本日司会進行を務めさせていただきます東野と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. あいさつ

【司会】 では、本日の第1回高砂市文化振興審議会の開催にあたりまして、登市長よりご挨拶申し上げます。よろしくお願いいたします。

(市長あいさつ)

3. 委員紹介

【司会】 どうもありがとうございました。次に、次第の3番目、今回、審議会委員としてお願いいたしました方々につきましては(資料6)として名簿をお配りしております。名簿順に自己紹介をお願いいたします。

(順次、委員自己紹介)

【司会】 次に、事務局側を紹介いたします。

(順次、自己紹介)

4. 審議会規則について

【司会】 引き続きまして、次第の4番目、高砂市文化振興審議会規則について、ご説明いたします。

(事務局説明)

5. 審議会会長、副会長の選出

【司会】 それでは、引き続きまして、次第の5番目、会長、副会長の選出を行います。

先ほど説明いたしました審議会規則第4条に「審議会に、会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める。」とあります。

皆さまの中で互選によって、会長、副会長様の御選任をお願いしたいと思いますっております。

自薦、他薦問いませんので、この場でお声かけをいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】 事務局の案がありましたら出していただきたいと思います。

【司会】 ただ今、事務局の案があればということですが、いかがでしょうか。事務局からの案をご提案してよろしいでしょうか。

(出席者拍手)

【司会】 ありがとうございます。

では、事務局案として、会長は兵庫大学教授の田端委員、副会長は高砂市文化連盟会長の北野委員にお願いしたいと考えております。ご異論がなければ拍手をもって、ご了承願います。

(出席者拍手)

【司会】 ありがとうございます。

会長に就任されました田端委員、副会長に就任されました北野委員は前の席にお移りいただきます。

それでは、会長、副会長に、一言ごあいさつをいただきます。

(会長、副会長あいさつ)

6. 諮問

【司会】 ありがとうございます。

ここで、会長、副会長が選出されましたので、諮問書を市長よりお渡しいたします。

(市長より会長へ諮問書読み上げ、手渡し)

【司会】 ありがとうございます。

では、ここで市長は所用のため、退席させていただきます。

今後の議事進行は、審議会規則第5条第1項により田端会長にお願いいたします。

7. 議題

【議長】 本日の会議は、委員10名全員が出席されており、審議会規則第5条第2項の規定により、過半数が出席されているため会議が成立していることを報告いたします。

今後、皆様方のご協力のもと、高砂市文化振興基本方針を策定していき

たいと思いますので、よろしく申し上げます。

(1) 文化振興基本方針の策定について

【議長】 それでは、本日の議題について、進めさせていただきます。

(1) 「高砂市文化振興基本方針の策定について」を事務局から説明願います。

(事務局説明)

【事務局】 この審議会において、今後高砂市文化振興基本方針について検討していただくのですが、まず、高砂市文化振興条例の制定の背景、内容等について、事務局からご説明いたします。

(事務局説明)

【事務局】 引き続きまして、基本方針の策定についてご説明いたします。

(事務局説明)

【議長】 説明は終わりました。

ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら願います。

(意見、質問なし)

【議長】 本日より、先程説明のあったスケジュール等に基づき進めていきたいと考えますので、皆様方のご協力の程、よろしく申し上げます。

(2) 高砂市文化振興審議会の運営に関する規程について

【議長】 それでは、(2) 「高砂市文化振興審議会の運営に関する規程について」を事務局から説明願います。

(事務局説明)

【議長】 説明は終わりました。

ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

(意見、質問なし)

【議長】 この規程について、了承してよろしいか。

(異議なし)

【議長】 それでは、「高砂市文化振興審議会の運営に関する規程」が承認されましたので、審議会の運営は、この規程に基づき行っていきますので、よろしくお願いいたします。

(3) 高砂市文化振興審議会の公開について

【議長】 それでは、(3)「高砂市文化振興審議会の公開について」を事務局から説明願います。

(事務局説明)

【議長】 説明は終わりました。

ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

(意見、質問なし)

【議長】 それでは、今後、審議会の公開については、この取扱いで行いますので、よろしくお願いいたします。

次回以降必ず傍聴についてご報告のほうお願いします。

(4) 高砂市文化振興基本方針策定に伴う意見募集等について

【議長】 それでは、(4)「高砂市文化振興基本方針策定に伴う意見募集等について」を事務局から説明願います。

(事務局説明)

【議長】 説明は終わりました。

ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

ます。

【委員】 高砂市における文化振興に関する調査に回答いただいた文化関係団体に意見を求めるのも1つの方法だと思う。

【議長】 基本的にはこの方向で、積極的に意見を求める方法も検討するということで進めさせていただきます。

【事務局】 サービスコーナー等も含め、できるだけ多くの施設で意見募集したいと考えています。

【議長】 それでは、意見募集については、この取扱いで行いますので、よろしくお願いいたします。

8 その他

【議長】 引き続きまして、次第の8番目、その他について、事務局から説明をお願いします。

(1) 高砂市の文化振興に関する意見交換会等について

(事務局説明)

(2) 高砂市における文化振興に関する調査結果について

(事務局説明)

【議長】 ありがとうございました。では説明のあった(資料8)の意見交換会での発言や(資料9)の各団体の調査結果を踏まえて、今後の文化振興基本方針策定についてどう進めていくか等ご意見がありましたら、お願いします。

【委員】 謡曲「高砂」、謡曲「高砂」と書いてあるが、今指導者がいない。松本章延先生にせめて小謡だけでも謡えるように「謡曲合唱団たかさご」を作ってもらったが、その後全然伸びない。後継者、指導者が出てこない。指導者をなんとかしていかねばならない。

【議長】 ありがとうございます。人材の問題。これは謡曲「高砂」以外でもあると思います。

【委員】 中学校などへ謡曲「高砂」の合唱の方達が行っていると聞いたのですが？

【事務局】 今年度より、全校で総合学習の一環の中で実施する予定です。

【委員】 他の中学校でも何かされてるんでしょうか？

【事務局】 謡曲合唱団を希望校へ派遣し、謡曲「高砂」を体験させている。

【委員】 今指導者は高砂で松本章延さんしかいない。このごろ子ども仕舞など上野先生の一門にお願いして薪能のときにさせていただいてるが、今後継者、若い指導者を何とかしていかないと、あまり「謡曲高砂、高砂」と言えない。

【議長】 ありがとうございます。

【委員】 具体的な意見じゃなく、感想なんですけど、文化振興ということで、対象者が市民のどういう層になるのか。このアンケート詳しくとっていただいて大変だと思うんですけど、ほとんどが高齢者の意見。小中学校までは何らかの形があるが、高校、大学、社会人になったときには、文化振興の対象となるのかならないのか。退職してから公民館活動などに入ってくる形、そうすると文化振興というのはどこか難しいなと感想として思うんです。

【議長】 ありがとうございます。文化を誰が担うのかという問題がありまして、今回調査は文化活動されている方というところで公民館ですけれど、本来条例の中にある考え方では、文化は生活から生まれてくると。そうすると例えば、働いてる中で、実は後からみれば文化活動であるというのはあるかもしれない。それがなかなか発掘できていないというのが現実だろうと思う。そういう点では、アンケート対象者が偏っているというのはあるだろう。何らかの形で幅広い意見が聞けるような場があればいいですね。学校など一つの対象かもしれないけれど、どうしても学校か公民館しかないんですね。働いてる方々の意見を聞く場が確かにないのが事実なんですね。

【委員】 30代、40代くらいで子どもと一緒に活動できれば文化の継承もスムーズにいくと思うが、仕事が忙しくてなかなか昼間は出てこれない。文化振興、文化振興という話はよく分かるんですけど、難しいかなとは思う。

【議長】 事務局と相談させていただいて、広範囲な意見を聞けるようにはしたいと思っておりますので、またそのときお知恵貸していただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございます。ほかに何か。

【委員】 高砂市内には潜在的ないろんな活動をしている人がたくさんいらっしゃる。その中で高齢者が大部分を占めてる。若い小学生、中学生に文化的な市内にあるいろんなことをどのような形で広めているかということ、学校にしろどこにしろほとんどやってない。今の謡曲にしろ学校の中の一つの行事で体験するような場を設ける。謡曲はどういう意味があるかとか、時間をさいて広めるというのが大事。そういうことを一切やってない。この前もちょっと言いましたが、高砂市には謡曲がある。それなら薪能があるときどこかの生徒を呼んで鑑賞させる。招待して学校の先生もちゃんと鑑賞して勉強しましょうというような形をもっていかないと、絶対底辺広げようとしても広がるわけがない。子どもの好きな水泳や、体操や、エアロビクスとか、そういうのは広まるが、市内にある文化を体験さす場を、下の方で広めないと、好きなものしか行かない。つながりができてこない。

【委員】 国が歌舞伎教室として歌舞伎の役者を派遣して、文化会館で鑑賞させていた。国自体がやっていたことがあった。国がダメなら市のほうでやるのも一つの方法かなと。謡曲「高砂」にこだわるなら、謡曲「高砂」についてはそこに手立てするとかも考えるべき。

【委員】 学校教育の中でやってみたいなという生徒を集めてクラブを結成させる。それも教養の一つ、基本的には文化の一つ。そういうのを広める。催し物をしますと案内しても好きな者しかこない。小さい子が三味線でも何でも教わることを親が積極的に文化に体験をさせるようにしむけないと底辺は広がらない。

【議長】 文化をどう継承するかというご提案の中に、学校システムを使ったらどうかとか、親教育を含めて考えたらどうかとか、そういうご意見だと思います。ありがとうございました。どうぞほかの方で。

【委員】 校長先生と色々な話をすることがある。小中学校で漢詩とかするのであれば、詩吟の方が、時間がある者が、学校が時間を作ってくれるなら教えにいこうかという案があった。各先生と私達がディスカッションしていく場が必要でないか。先生方と見つけていってつないでいく場を作っていないと、なかなか一方的に子供に教育しないといけないとかだけだと無

理ではないだろうか。そこで学校の先生方とお話しできるような場を、作っていただけたら、かなり深めることができるのではないかな。

【議長】 学校教育と社会教育をもう少し連動させたらどうかという意見として承ります。また教育委員会の方で、まとめるにあたって課題とかあれば出していただこうかなと思いますので。ありがとうございます。

【委員】 夢のシロに応募して、助成金いただいて、ガイドするものを作っている。ただアンケートでは1名しかないのがさみしい。古文書を読む会が活動しているが、市内に古文書をすらすら読める先生が1人しかいない。高砂市には資料がたくさんある。ところが、読めない。古文書を読める人の育成とか進めてもらえたらいいかなと思います。
佐々木すぐる先生が高砂に縁の深いということを高砂の人が知らない。学校から帰るころの音楽を「ふるさと」の代わりに、高砂ゆかりの歌、音楽を流せば知らないうちに高砂ゆかりの歌というのが身につくのではないかな。若い人に知ってもらう、PRする必要がある。

【議長】 1点目は文化に係る市民活動への助成をいただいての活発化、振興にかかわるのではないかな。2点目が人材育成ですね。先ほどの指導者、古文書の会も人材育成についても考えたらどうか。3点目が、音楽の話が出ましたけれども、文化振興というのは文化財課だけでやるのではないかな。もっと全市的にももう少しいろんな工夫ができるのではないかなという、こういうご意見じゃないかなと思いますので、今後重要なご指摘と思います。ありがとうございます。あと？

【委員】 工業面では出荷額が4番目に位置している。日本一、世界一のものが工業面で有る。文化面では謡曲「高砂」、高砂高校ジャズバンド部という、日本一、すなわち世界を相手にできる資産が高砂に有る。方針を考えていくにおいて内側の教育の充実という観点の話と、都市間競争の中で高砂が埋没してしまうのではないかな。昔は結婚式で「高砂や」が謡えた。20代から下でどれだけ知ってるか。方針を考えるにおいて内部の充実と高砂のオリジナルの資源をどう広め、発信していくか。世界を相手にとりいう資源がどれだけあるのか発掘して、またその中でどう高めていくのか、広めていくのかということも検討していけば。

【議長】 資源の発掘、その発信ということが大事ではないかなという、特にそういうものがたくさんあるという確信を持っておっしゃったと思います。ありがとうございます。具体的に発掘の仕方とか、そういうのは？

- 【委員】 商工会議所では、空家、空き店舗対策で商業の活性化に取り組んでいる。そこで工房であるとか、人が通らなくても人が住み着いて文化的なことをやる、アートタウンプロジェクト、A T Pといいまして、万灯祭でもアートクラフト展として播磨地方から集まっていたいで店を出していただくという取り組みをやっています。
- 【委員】 文化振興の対象者がどういうところかはっきりしてないと言われたが、対象としては全員が我がまちを誇りに思えるというそういうまちができる基本構想にしていかないといけないと思う。高砂再発見ウォークで、まちを歩いているが、ガイドの方に案内してもらったら、自分のまちに誇りが持てる。高砂のいいところを再発見して行って、それをみんなが感じていくと、自分のまちに誇りが持てると思うので、それをどう発掘していくか論議していけたらなど。
- 【委員】 竜山石ですが、高齢化に伴い、若い人達に引き継ぐ施策がない。残念ながら竜山石の採掘に対しては、段々先細りになって、需要がありませんので、供給する人が少なくなり段々さみしくなってくる。高砂市民が竜山石を見直す、そしてそれが機動力になって近隣に広めていく、そういうことが大事な時期になっているのではないかと。
- 【委員】 昨年度高砂市としてまとめたものが教育センター、学校教育課にある。
- 【委員】 ブライダルシティ宣言をしたとき、各国の結婚式をしたり、ニュージーランドの日本まつりで日本式の結婚式をして、第九を歌ったりした時代もあった。
- 【委員】 竜山石について。古墳時代、石棺に使われて、千数百年間、採石が続けられ、今も地場産業として、石棺や延べ石に加工されている。こんなに長く続いている産業は日本国内では非常に珍しいと聞いている。それが消えかかっているということで危惧している。せめて公共施設にはできるだけ使用するようにはしてはいかがでしょうか？
- 【委員】 石の宝殿でイベントをやっている。そこで石を加工する若い人ができてきて、作品展したり、生活用品に加工したりしている。高砂市も御膳立てしてでも、若い人がどこかで催し物があるときに、若い人がこんな作品作ろうか、竜山石でこういうことができるという、何か一つでもそういうふうにもっていかないと発展はない。

【委員】 尉と姥の彫刻を掘って、電車とか車から見えるようにするなど、一つアドバルーンみたいなものをあげないと、なかなか前へ行かない。

【委員】 手にとってみて、こんなに美しいものだとは今まで知らなかった。神戸でコンクリートで鍵盤を作られて、大阪駅構内で演奏をされたのが放送され、ネットでも公開されていた。いいかどうか別として、楽器にできないかと思ってみたりするし、若い人たちがやってみたい、あるいは手に取ってみたいと思えるものを考えてみると面白いと思う。

【議長】 ありがとうございます。またそういう意見をどこかで、若い人にも聞いてみたい。工夫次第でしょうね。竜山石は大変面白いテーマ、目にみえてよくわかると思います。

【委員】 さきほど作品を作ったと言われたが、あの石で作品を作ってる方がおられます。石棺、大きな石、あるいは基礎になってしまう、隠れてしまうようなところしか使われない。作品を作って皆さんに見せてあげるというイベントはできないと思う。

【委員】 石の性質でね。庭の道とかで、石の性質がもろいから、小さい細工ができる石でない。

【委員】 やわらかくて加工しやすいらしいが、昔は堤防、石垣などに使われていた。

【委員】 この辺の庭の道はほとんど竜山石。きれい。でももろいんです。

【議長】 市を挙げて文化をどう考えるかの、おっしゃってるのは同じだと思いますね。

【委員】 ガイドの方の説明で高砂をまわったとき竜山石を見ました。道の際にあってすごくきれかったんですね。そういうところ私たちは意見を出すだけでなく、いろんなコース、例えば中小企業の方ががんばってる場所、また月の沙漠のある碑があるところなど、いろんなコースを作って、行きたいところに案内する人がいて、安価な金額で行けるようなことをどこかやってみました。10人くらいの小さな単位ですが、まちの特徴を見ながら、一つでなくいろいろ組み合わせていく。それをまわっていくと、子供たちは土日で行けますし、お母さん方は行ける日に行ったらいいし、そういうところ

ろから高砂の良さをみんなが実際に見聞きしていけば、かなり広がっていくし、お手伝いできる人も出てくるのではないかと思うんです。まずコースをとりあえず作りながら、若い人も年配の方も見てもらい広めていく。それから、このアンケートですが、公民館グループだけではなく、世帯単位に、家族の中の意見を入れていただくのもどうか。こういう特技を持つてるとか、謡とか習ってる方とか、お手伝いできる方も書いてくださいとか、そういう方法もアンケートの取り方の工夫かなと思います。

【議長】 ありがとうございます。これで終わらせていただきます。大変貴重なご意見、すぐに使えるような、盛り込みたいような意見もいっぱいありました。これにつきましては、次回までに事務局で分野ごとに取りまとめさせていただいて、次回以降に説明させていただきたいと思います。資料を読み切れてないと思いますので、ご意見を事務局の方にお出しただけでないでしょうか。会合を何回もできないものですから、アンケートの取り方も含めまして、お気づきの点とか、こういうことが面白いのではないかとか、忌憚のない意見を事務局の方へお出しさせていただきたいと思います。

(3) 今後のスケジュールについて

【議長】 最後に、今後のスケジュールについて、事務局から説明願います。

【事務局】 次回 第2回文化振興審議会 11/24(木) 15:00～ 南庁舎 2階 会議室2で開催。案内を含め、意見募集の方法とあわせて事務局から連絡します。よろしくお願いします

【議長】 次回までにご意見をどんどん出してください。

【事務局】 郵送、メール、F a x どんな方法でも結構です。次回以降は事前に資料をお渡しして、考えていただけるようにしたいのでよろしくお願いします。

【議長】 これで議事はすべて終了しました。副市長からあいさつをお願いします。

(副市長あいさつ)

【司会】 これにて散会いたします。ありがとうございました。